紗央里のコミュニケーション

シンボルから文字の獲得

PICとPCS

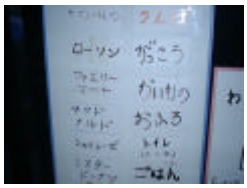
- PICは、やや抽象的なシンボル。
- PCSは、具体的なシンボル。
- 身のまわりの目に付きやすいところにおく

文字との結びつき

- PICやPCSと一緒に文字を提示することで、シンボルと文字が結びつく。
- シンボルを使い文字の練習を始める。
- シンボル以前には、具体物や写真カードなどを利用した。

文字カードの利用

- 興味のあることばをカードに書く。
- 利用しやすいように、裏にマグネットをつける。



シンボルと文字の利用

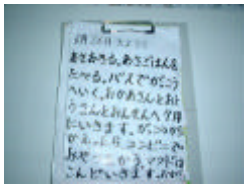
- 抽象的なことばについては、PCSを利用する。
- 具体的なことは文字、抽象的な物はシンボルの併用。

月間の予定表

- 大まかな予定は月間の予定に書く。
- 楽しみとなるものを入れておく。

毎日の予定

- 毎日の予定を書く。
- 文字は視写できるが、自分で書くことは、今のところできていない。



スケジュールの意義

- 毎日、予定を書くことで、日課が変わっても混乱することが少なくなった。
- 月間の予定で、楽しみを待つことができてきた。

発語との関係

- 発語は今のところないが、人の口元を見たり、口形を真似することは増えてきた。
- 自分の要求がわりとかなうので、やりとりがよりスムーズになってきた。
- AACを使うと言葉が出にくいということはない。

ビックマック

- 1つの言葉しか入力できないが、言葉の有用性を知る上では、とても役に立った。

チャットボックス

- 16の言葉が入るが、かえって使い勝手が難しかった。
- 場面を設定した中で、円滑なコミュニケーションが可能と思う。

コミュニケーションブック

- VOCAよりは安くできる。
- サポートブックと組み合わせて使っている。